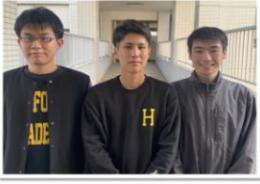
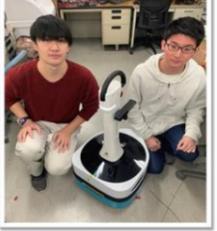


No.	写 真	学校名	学部・学科	代表者名	学 年	事業名	プランの概要
1		北九州高専	生産デザイン工学専攻	笛 凌太郎	専攻科2年	AR技術を活用したダイバー育成のための研磨手順表示システム	本事業では、画像処理やAR技術を用いて研磨手順を表示する新人ダイバー育成システムを提案し、ダイバーの負担軽減や人材育成時間の短縮を目的とする。現在、社会問題である労働人口の不足や熟練者の技を受け継ぐ役割としてシステムを提供する。傷を撮影するロボットとARグラスに搭載した研磨手順マニュアルを販売する収益モデルである。
2		長崎大学	薬学部薬学科	李 明恩	4年	地域薬局同士の医薬品不動態在庫二次流通システム「ヤクカリ」	「ヤクカリ」は近くの(6-10km以内)薬局同士、要らなくなった医薬品在庫を販売するマーケットプレイスを、ウェブ・アプリで提供するビジネスである。販売手数料が基本的な収益であり、マーケットプレイスをフックビジネスとして、薬剤師プラットフォームを作り、メーカー、人材会社から情報共有、広告掲載を通して利益を取る。
3		九州大学大学院	経済学府産業マネジメント専攻	鬼崎 美緒	1年	「Share Pick!」シェアリングエコノミーサービスの比較総合サイト&アプリ運営事業	私たち「Share Pick!」は、メインターゲットを忙しいビジネスパーソンとし、月額360円の定額制で、スマートで使いやすいシェアエコサービスの比較総合サイト&アプリの運営を行う。また認知向上などに悩むサービス事業者のために、顧客情報分析を踏まえたコンサルタント事業を提供。メインビジョンは「シェアをもっと、スマートに」
4		北九州高専	生産デザイン工学専攻	岡部 唯人	専攻科2年	病院内での歩行案内支援ロボット	2020年の新型コロナウイルスの流行による医療従事者の人材不足、休職や離職は大きな問題となっている。その改善策として医療現場のロボットの導入を考え、ロボットが可能な作業といった観点から「病院内での移動」に着目し、案内、サポートを行うビジネスである。私達は、ロボットの導入や開発、メンテナンスでこの事業での役割を担う。利益は、ロボット代+メンテナンス代を月単位で頂き、追加機能をオプション代として頂く。
5		宮崎公立大学	人文学部国際文化学科	森山 陸	2年	ALLHOME	児童養護施設の職員の3年以内の離職率が49%という問題を、ALL HOMEという一つのビジョン特化型の求人プラットフォームで複数の児童養護施設を比較できるようにすることで解決する。それぞれの児童養護施設のビジョンに共感できる就職者を採用するサポートをし、結果的に施設で暮らす児童が過ごしやすい環境を作ることに繋げる。各児童養護施設法人からの求人掲載料と採用コンサルの2本柱で収益化をしていく。
6		筑紫女学園大学	現代社会学部現代社会学科	帆足 有香	3年	天使のお便り	本プランは、「必要最小限の量で自分に合った複数種類のナプキンを使い分けたい」「お店でナプキンを買うことに抵抗がある」「ナプキンの購入・持ち歩くのを忘れてしまう」等の、生理用品の使用や購入に関する課題を解決するための生理用品の月額販売ビジネスである。生理用品を仕入れ、私たちを通してユーザーへ定期便で届けるサービスであり、月額利用料から収益を得るEC事業となっている。
7		立命館アジア太平洋大学	国際経営学部	伊藤 愛留	3年	To the world	本サービスは、日本の小学生から大学生を対象に、世界中の遊びを活用し、APUの学生による多言語の言語教育を提供するサービスである。ステイホームの影響もあり、最初の遊びはオンラインゲームで英語を学べるサービスを展開する予定である。私たちは、言語を“勉強”ではなく自分が楽しむ為の“ツール”とする事で長期間の言語学習を実現させる。料金は9000円で月4回の月額制で提供予定。
8		熊本大学	工学部材料応用化学科	五木 結愛	4年	かまくら	「手を洗う人類」に、「手洗いの新しい概念（固形石鹸を削る装置）」を「店頭およびネット」によって販売する。本事業においては、私は企画立案から販売までを総合的に統括する。収益は、商品のリース（ショッピングモールなどが対象）と販売（家庭が対象）の二形式によって得る。
9		佐賀大学大学院	理工学研究科理工学専攻	小嶋 恒	修士2年	twelS	学生や教育関係者、研究者をはじめとする数式を扱うすべての人にWebアプリやモバイルアプリとして数式検索エンジンを提供することで、彼らが欲しい情報を容易に取得できるようにする。私が数学の課題で悩んだことがきっかけとなって開発した数式検索エンジンのプロトタイプを改良し、無料で提供する。広告収入によって収益を得る。
10		長崎県立大学	情報システム学部情報セキュリティ学科	鬼塚 俊佑	2年	3Dモデルを用いた医療支援	医療関係者、特に整形外科の医師の方々向けに、3DCTの画像から3Dモデルを作成し、3Dプリンターで印刷、配送する。また、その3Dモデルはサイトから確認することができる。このサービスで手術のシミュレーションがよりやり易くなるだけでなく、患者にとっても術前の説明が分かりやすくなり不安軽減に繋がる。医療従事者は1つあたり大きさに関わらず定額でモデルを手に入れることができる。また、月額制でWeb上から3Dモデルを操作することのできるサービスも提供する。